ねりま小中一貫教育レポート

○●○ 第 8 号 ○●○

平成 24 年 10 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第８号では、小中一貫・連携教育研究グループの一つである「光が丘夏の雲小学校」と「光が丘第三中学校」の取組を紹介します。

【研究主題】　人とのかかわりの中で学び高め合う児童・生徒の育成

◆授業交流を中心とした小中一貫教育の研究

小中一貫教育の研究グループの多くが抱える課題のひとつに、小中の話し合いや合同研修の時間の確保があります。

光が丘夏の雲小と光が丘第三中では、極力、授業カットはせずに、小中の分科会や協議会は放課後の１時間程度を利用して行っています【写真右】。お互いの授業を参観する場合も全員参加とはせず、分科会で小中の「授業参観日」を伝え合い、それぞれの先生が時間割のやりくりがつく時間に授業を見合うようにしています。

◆教科書を持ちあって授業の進め方について話し合う

「数学部会」では、「数と計算」領域に焦点をあてて学習指導連携を進めています。「文字式」についての話し合いでは、小学５年の「きまりを見つけて考えよう」と中学１年の「文字の式」の教科書を見比べながら、こんな会話がありました。

中学校の先生　　小学校でも「規則性のある数」を教えているとなると、中学になって、文字を使う便利さを伝えるだけでいいのだろうか、と悩んでいる。算数では「途中の考え」を重視しているようだが、数学では公式にあてはめて形式的に解くことが多いので、つなげるのが難しい。

小学校の先生　　小学校では、既習事項から新しい問題に対する自分の考えを出させて、友達の考えも聞いて、それから公式にもっていく。単に公式を覚

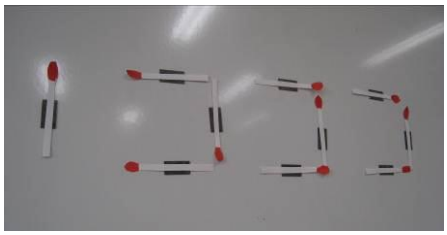
えるだけではダメである。

中学校の先生　　子供に考えさせることが大事ということだと思うが、中学校ではそこにかけられる時間が非常に少ない。

小学校の先生　　小学校で習った表から推測させてみるなど、習った考え方が残っているかを検証するところから入ってはどうか。

中学校の先生　　小学校で習ったことがどれだけ身に付いているかをみたうえで、さらにどれだけ新しい考え方ができるか、を挑戦させたい。文字を使ったらもっと簡単に表せるんだよ、という流れでいけばいいかな。

◆授業交流で授業が変わる



６月に行われた中学１年数学の研究授業は、手作りのマグネット付マッチ棒【写真㊧】やワークシートを使い、子供たちにいろいろな文字式を考えさせることに時間をかけた授業でした。

中学校の先生からは「数学で生徒に発表させる授業は少ないので新鮮だった。このようなやり方を今後どう取り入れるかが課題」、小学校の先生からは「小学校でゆっくりコースにいた子供が何も手をつけられずにいた。習熟度別の少人数学級でもなるべく同じレベルに押し上げなければと感じた」「このあと、どうやって文字式を作れるようになるのか、次の授業の様子も知りたい」と活発な意見交換がなされました。

授業を行った先生からは「文字を使うのが苦手な子供にとっては、具体物から入る必要があると思った。今回、小学校の教科書を見るなどして、自分の勉強にもなった」との感想が聞かれました。

◆相互に授業を見合って、子供たちの課題を確認する

９月に行われた小学４年算数の研究授業「どのように変わるかな（変わり方調べ）」では、時計を模したカードで「時刻あてゲーム」をしながら、２つの数の関係を文字式で表す教え方を分科会の先生が参観しました。「２つの数を足すと 13 になることはわかっても、式にできない子が多かった。中学校で x， y を使って関数関係を表すことが苦手な生徒が多い点に共通点を感じた」との感想が聞かれました。「関係がわかっても式にできない」ことが課題であるとわかってきました。